シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画に係る全体目標の概要

平成28年3月

◆背景

シマフクロウ保護増殖事業による一定の成果
➡ **近年、生息個体数は増加傾向**

課題

✔**生息地の集中と分断**
⇒生息地の孤立化
⇒近親交配・遺伝的多様性の低下
✔**給餌、巣箱への依存** etc…

点の保護から面的な生息環境の保全へ

シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画（平成25年３月策定）

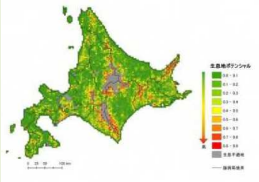
✔環境省としては、公共事業等において**生息環境に積極的な配慮や直接的に生息環境の整備が進むよう調整**していく
✔そのためには、「**どの地域で、どこまで（個体数増を目指す）実施するか**」を示す必要がある

➡ 環境省として、シマフクロウの生息地拡大に向けた環境整備の取組を進める一環で
環境整備対象地の選択及び具体的事業を進めるに当たっての数値目標を検討

◆数値目標の検討方法

生息適地評価

シマフクロウの生息情報 ＋ 環境情報データ



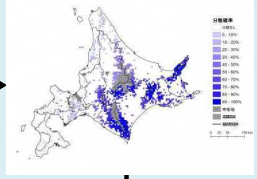
生息適地マップの作成

✔**既存生息地の生息状況を指標にして北海道全域の生息適地及び環境収容力を評価**

自然分散予測

環境研究総合推進費
『シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全』
研究成果の活用

1）増加と分散の進捗を予測



・分散の促進
・優占メッシュの広がり

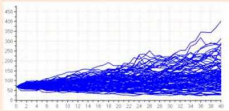
2）環境整備を想定したシミュレーションを複数のパターンで試行

✔**面的な広がりやすさを評価**
✔**分散促進に効果的な環境整備の対象地を評価**

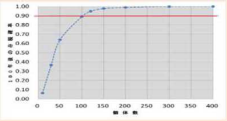
個体群存続可能性分析（PVA）

既存情報の収集
繁殖率、出生数、分散率、死亡率、カタストロフ等

1）過去の個体数動態との比較



2）初期個体数を変化させて試行

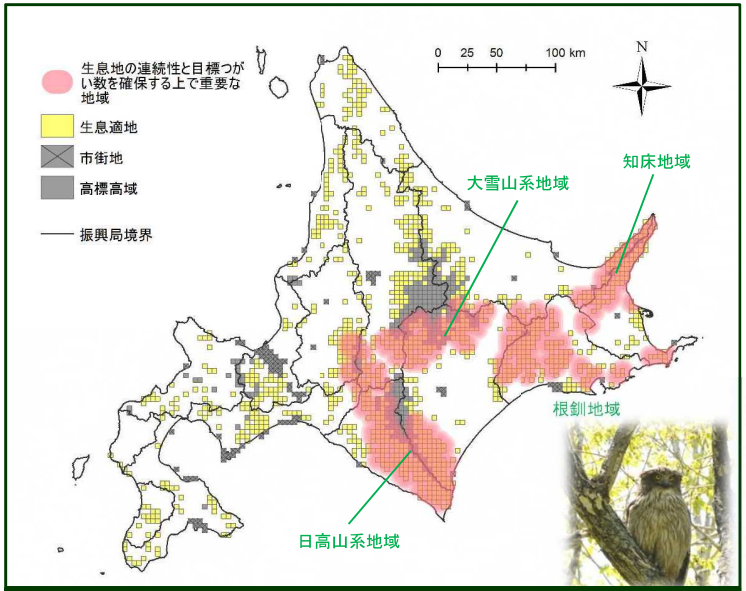


✔**100年間の絶滅可能性10%以下となる個体数（最小存続可能個体数（MVP））の検討**

◆全体目標

目標つがい数

「知床」、「根釧」、「大雪山系」及び「日高山系」の4つの既存の生息地を中心に、それぞれが一つのまとまりを持った個体群として、各個体群のつがい数が「24つがい」以上となることを目標とする



【図】シマフクロウの生息適地及び生息地の連続性と目標つがい数を確保する上で重要な地域

生息環境の保全及び環境整備への活用

目標つがい数の達成に向けて、**図を参考に**、各事業者が実際の現地の状況、行政計画等と照らし、個別に生息環境の保全及び環境整備が可能な場所を必要に応じて検討し、**生息環境の保全及び環境整備**を実施して行くことを想定

シマフクロウの**営巣や採餌のための河畔林・河川環境の保全・整備、事故防止対策**などのシマフクロウの生息に必要な環境条件を整える活動

現地情報の収集

全体目標の策定にあたり現地調査は行っておらず、各解析においてはデータの不足等の課題もあるため、今後、**精度の向上に努めていく必要がある**

全体目標の評価・見直し

✔繁殖つがい数のモニタリングによる全体目標の達成状況の評価
✔現地の状況や実際のシマフクロウの個体群動態に関する情報を収集し、全体目標の妥当性を検証

➡ 必要に応じて全体目標を見直し

（問合せ先）
本件に関するお問合せは以下まで
〒085-8639 釧路市幸町10-3 釧路地方合同庁舎4階 釧路自然環境事務所 野生生物課
Tel:0154-32-7500 Fax:0154-32-7575